

2024年4月11日

株式会社イオン銀行

イオン銀行次世代ATMの導入について ～お客さまニーズにフレキシブルに対応できるATMへ～

株式会社イオン銀行(東京都千代田区、代表取締役社長：小林裕明、以下、当社)は、新たなハードウェアを搭載した次世代ATM『CJ24機』(以下、次世代ATM)を導入いたしました。



当社は、イオン銀行ATMをお客さまとの重要なタッチポイントとして位置づけ、入出金や振込、クレジット取引等の基本機能に加え、電子マネーWAONへのチャージ・残高照会やイオンカードの磁気データ復元等のさまざまな機能を備え、イオングループ各店をはじめ駅・空港等、全国に約6,750台(2024年2月末時点)設置しております。また、幅広いATM提携ネットワークを構築し、イオン銀行ATMでほぼすべての金融機関のカードがご利用いただける等、利便性向上に向けた多機能化と設置拡充を進めてまいりました。

このたび、お客さまのニーズに迅速かつ柔軟にお応えし、さらなる顧客体験価値の向上を図るべく、将来的な機能拡張を視野に入れた“高性能カメラ”“イメージスキャナー”等の新たなハードウェアを搭載した『次世代ATM』を開発いたしました。機能拡張の第1弾として、お客さまより多くのご要望をいただいているイオンのコード決済サービス「AEON Pay」への“現金チャージ機能”の搭載を予定しております。(特許出願中、2024年7月実装予定)

ATM設計においては、すべてのお客さまにご利用いただけるよう、視認性や操作領域を考慮し、お客さまが操作するメインディスプレイと、PR情報を表示するサブディスプレイの2画面式を採用し、車いすに座ったままでも操作可能な高さとしたしました。また、セキュリティ対策として、各ディスプレイには覗き見防止フィルターを装着しております。視覚に障害をお持ちのお客さま向けには、専用受話器で音声案内を受けながら、プッシュボタン操作でお取引いただける“ハンドセット機能”を搭載いたしました。本機能は、現行ATMにも、順次、搭載を進める予定です。

環境配慮の取り組みについては、機体設計を見直し、付帯機器を収納したことで、現行ATM(CJ23機)の約20%にあたる90kgの軽量化を実現しました。これにより、1台あたりの年間CO2排出量が24.3kg*削減されます。この削減量は、森林に植えられた成木25本の一年間のCO2吸収量や、家庭における約1カ月間の電力消費によって排出されるCO2排出量に相当します。また、現行ATMでご好評いただいております『磁気復元サービス』も引き続き搭載し、カード再発行にかかる利便性向上と環境負荷低減を実現します。

これからも当社はお客さまの幅広いニーズにお応えするべくサービスの向上に積極的に取り組んでまいります。

以上

■新たな機能・ハードウェアの搭載

(1) 機能拡充を視野に入れた機器搭載



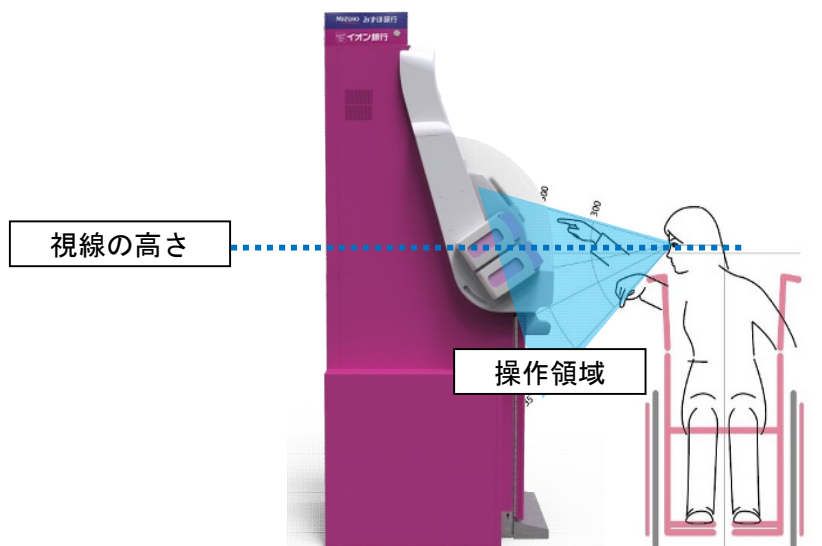
従来のイオン銀行ATMにおけるNFC機能に加え、新たに“高性能カメラ”および“イメージスキャナー”を搭載いたしました。将来的に、顔認証やマイナンバーカード等を用いたeKYC(電子本人確認)対応等、ATMで本人確認が行える機能搭載を予定しております。

●AEON Pay 現金チャージ機能 (特許出願中、2024年7月実装予定)

顧客利便性向上およびイオングループとの連携強化を目的に、新たな本人認証を採用した「AEON Pay 現金チャージ機能」を搭載予定です。

(2) 視認性向上およびアクセシビリティに配慮したディスプレイ設計

ATM画面は、お客さまが操作するメインディスプレイと、PR情報を表示するサブディスプレイの2つの画面を上下に配置する“2画面式”とし、また配置においても、お客さまの目線の高さと同操作領域を考慮に入れ、車いすの高さでも操作可能な設計といたしました。加えて、各ディスプレイに高精度の覗き見防止フィルターを設置することで、プライバシーを確保した上で、すべてのお客さまにとってのアクセシビリティを向上します。画面内での表示において、現行ATMにおけるカラーユニバーサルデザインを使用し、視覚に障がいをお持ちのお客さまに配慮したデザイン設計としております。



(3) 点字対応およびハンドセット機能によるバリアフリー化



ハンドセット機能



手荷物台/杖置き



点字ラベル

多様なお客さまに、安心してお取引いただけるよう、現行ATMでも表示している「点字ラベル」のほか、手荷物台、杖置きを設置いたしました。またATM受話器を活用した“ハンドセット機能”を搭載いたしました。これにより、ATMの受話器からオペレーターの音声案内を受けながら、押しボタン操作で入出金等のお取引*をご利用いただけます。本機能は、次世代ATM機に加え、現行ATM（CJ23機）にも、順次追加搭載する予定です。

※一部、ご利用いただけない取引がございます。

(4) 環境に配慮した機体設計

【次世代ATM（CJ24機）】

【現行ATM（CJ23機）】



総重量は、現行ATM（CJ23機）の約20%にあたる90kgの軽量化を実現しました。CO₂排出量については、次世代ATM1台につき年間24.3kg*の排出量削減を実現します。

※削減量相当の例

- ▶森林に植えられた25本の成木が吸収する1年分のCO₂排出量相当
- ▶家庭における約1カ月間の電力消費によって排出されるCO₂排出量相当
- ▶自家用車で約100kmの走行によって排出されるCO₂排出量相当
- ▶レジ袋の製造にかかるCO₂排出量の約420枚分に相当